

## ✈ 海外生活 だより

ソウル事務所

# 選挙で投票すれば、食事代が50%OFF!? ～盛り上がりを見せた韓国大統領選挙。 その功労者は?～

(財)自治体国際化協会ソウル事務所所長補佐  
菊地 和幸 (茨城県派遣)

皆さんは選挙というと堅苦しいイメージを持っていませんか? 国益を守るため、経済的な発展を図るため、あるいは子どもの未来のため等々…。いずれにしても、有権者一人ひとりがさまざまな想いを込めて一票を投じていることでしょう。

もちろん、ここ韓国においても基本的には日本と変わりありませんが、選挙で投票すれば食事代が50%OFFになるチャンスが眠っているとしたら? ちょっと面白いと思いませんか?

日本と韓国は、似通った面が多い一方、似ているからこそ、<sup>わず</sup>かな差が際立つものです。本稿では筆者が間近に見た韓国の選挙事情を紹介したいと思います。

## 女性初の大統領が誕生

2013年2月25日、与党セヌリ党の朴槿恵（パクウネ）氏が大統領に就任し、韓国初の女性大統領が誕生しました。昨年12月の選挙戦においては、野党と壮絶な選挙戦を繰り広げ、投票率は前回の大統領選挙（63.0%）を大幅に上回る75.8%を記録するなど韓国国民の関心、特に若い有権者の関心を集めました。

### 【参考】大統領選挙投票率の比較

年齢層	投票率の比較		増減率
	2007 (前回)	→2012 (今回)	
全体	63.0%	→75.8%	+12.80%
60歳以上	76.3%	→80.9%	+4.60%
50代	76.6%	→82.0%	+5.40%
40代	66.3%	→75.6%	+9.30%
30代 後半	58.5%	→72.3%	+13.80%
30代 前半	51.3%	→67.7%	+16.40%
20代 後半	42.9%	→65.7%	+22.80%
20代 前半	51.1%	→71.1%	+20.00%
19歳	54.2%	→74.0%	+19.80%

出所：韓国中央選挙管理委員会報道資料から作成

## 韓国の選挙は、色鮮やか!

韓国の選挙で特に目を引くのは、候補者や後援者たちのカラフルな衣装です。

大統領候補者は、自らのカラーを設定しており、赤色や黄色、緑色などの鮮やかな服装で選挙運動を行います。街頭演説の際には、候補者はもちろん、選挙事務所スタッフ、後援者、はたまた候補者を支持する有権者までもが同じカラーを身につけて駆けつけるため、演説会場は独特な一体感に包まれます。

## 踊る選挙演説

私の興味本位で参加した与党セヌリ党（設定カラーは赤）の選挙演説会場には、真っ赤なジャンパーやマフラー、手袋、なかには赤く塗り上げた<sup>ほうき</sup>箒(?)を持参したたくさんの方々が会場に詰めかけました。



街頭演説に駆けつけた支援者たち

候補者の到着を待つ間、駆けつけた芸能人やスポーツ選手による応援演説が行われます。こま

では日本の選挙でもよく見られる光景ですが、韓国ではヒット曲の替え歌を大音量で流して会場の雰囲気を盛り上げます。

ステージ（本来は演説用のひな壇）には、赤い服を着た若い女性たちが、日本でも有名な韓国のガールズグループKARAのヒット曲を替え歌にして振り付きで踊ります。

「ららら～ららら～パクネ（候補者の名前）～ららら～」という具合に、歌詞に候補者の名前が織り込まれており、帰宅する頃には思わず口ずさんでしまうメロディーとともに候補者の名前がすっかり刻み込まれてしまいました。衝撃的でありながらも、自然と体が動き出してしまう不思議な力を持っています。

私は直接見ることができなかったのですが、候補者自らが踊るときには、会場は大いに盛り上がるそうです。

ともあれ、韓国の選挙演説は、演説を聴きに来たつもりが、いつの間にか一緒に踊って叫んでいるという楽しい側面を持っていると言えます。



ステージ上で替え歌とともに踊る様子

## ネット選挙の解禁

今回の選挙は、インターネットやSNSを利用したネット選挙運動が解禁された初めての大統領選挙となりました(注)。

候補者陣営は、Twitter上に所在地を投稿したり、著名人のメッセージを掲載したりSNSを活用した選挙運動を展開しました。また、一般の有権者もFacebookやTwitterなどで特定の候補者や政党の支持あるいは批判を自由に発言したり、動

画を投稿するなどインターネット上の意見交換が活発化しました。

新聞等においても有権者のネット上の動向を分析するなどして数多く報道されました。

韓国内では、ネット選挙運動の解禁がSNSの主な利用層である20～40代に選挙への関心を喚起させ、75.8%という高い投票率に寄与したとの分析もなされています。

## 選挙当日の認証ショット

選挙当日、投票を終えた友人から写真撮影を頼まれました。投票所を背景にして撮影したのですが、友人はこの写真をFacebook上に公開しました。この写真が「認証ショット」です。

韓国では、投票所を背景に写真を撮影し、インターネット上に公開する「認証ショット」が人気を呼び、ブームとなっています。

街ではこの人気にあやかり、認証ショットを提示することで割引になる店舗が数多く現れ、カフェ、パン屋、美容室、化粧品店、自動車修理工場などさまざまな分野で認証ショット割引が実施されました。なかには“50%割引”などの大幅割引の店舗まで登場し、認証ショット割引がある店舗の“まとめサイト”も現れるほどでした。

## まとめ

今回の韓国大統領選挙では、これまでの韓国特有の選挙風景に加えて、ネット選挙解禁や認証ショットといった新たな要素が加わり、選挙という堅苦しい行事が、一種のお祭りのような雰囲気を持っていました。

特にネット選挙解禁や認証ショットブームは、若い世代の目を選挙に向けさせた功労者と言えるのではないのでしょうか。

日本でも全面解禁に向けた国会審議が本格化しています。若者の投票率の低迷が嘆かれている昨今、打開策の一つとして面白い事例ではないかと感じています。

(注) 日本でも解禁に向けた動きが本格化し、夏の参議院選挙から解禁する改正公職選挙法が2013年4月19日に成立している。